



せみね監督署だより

発行 瀬峰労働基準監督署（所在地：栗原市瀬峰下田50-8 電話：0228-38-3131）

あけましておめでとうございます。昨年は、瀬峰労働基準監督署の労働行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

労働災害の減少傾向を堅持

令和5年の登米・栗原における労働災害（休業4日以上）による被災者数は、**令和5年11月末日現在、全産業で154人（令和4年比6.1%減）**です。皆様のご協力をいただきながら、年間を通じて労働災害の防止に取り組むことができたものと考えております。ありがとうございました。

令和5年の宮城県における労働災害（休業4日以上）による被災者数は、令和4年に比して若干ながら減少しております（令和4年比0.9%減）。

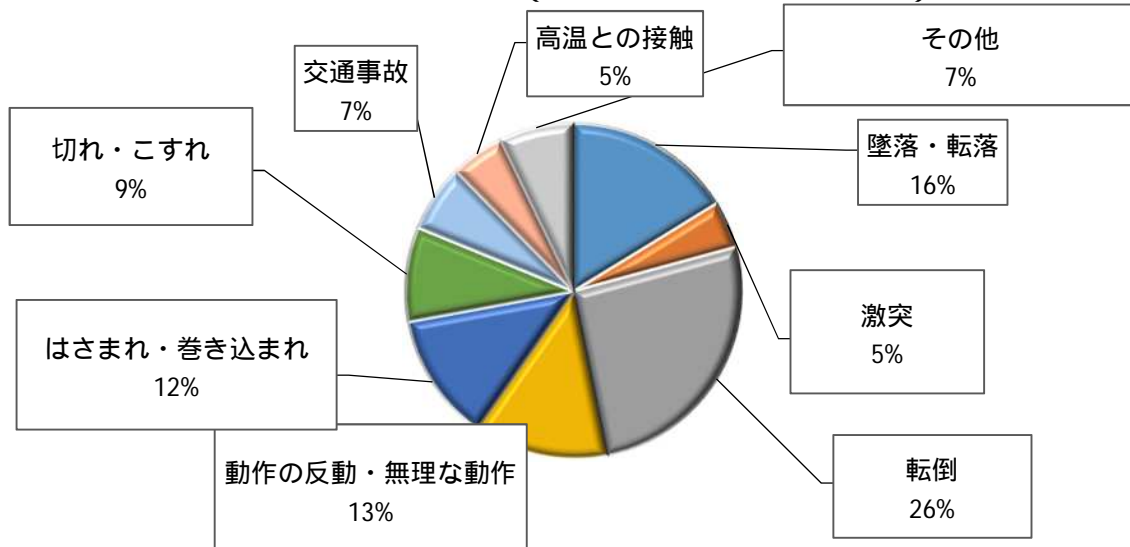
令和5年の宮城県における労働災害による死亡者数は、令和5年11月末日現在で、令和4年の同時期と比べて3人の増であり、既に令和4年における死亡者数を上回っており、憂慮すべき状況です。**なお、瀬峰署は、死亡者ゼロで推移しております。**

令和5年の登米・栗原で発生した労働災害（11月末日現在、154人）を事故の型別に見ますと、「転倒」が最も多く、次いで、「墜落・転落」、「動作の反動・無理な動作」となっております。

「転倒」につきましては、例年、冬季に多く発生します（登米・栗原で令和5年1月から3月に発生した休業4日以上の労働災害60件のうち、22件（約37%）が「転倒」災害でした）ので、今、まさに注意を要します。裏面を参考にする等して「転倒」災害の防止に取り組んでいただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症を除いた労働災害発生状況（11月末現在）		速報値		
	管内（登米・栗原）被災者数		県内被災者数	
	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年
休業4日以上	164	154	2136	2116
死亡	4	0	15	18

事故の型別 令和5年11月30日現在（全数154件） 速報値）



「転倒」災害を防止しましょう!

「滑り」による転倒災害の原因と対策

1 凍結した通路等で滑って転倒 (25%)

→従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マット等を設置する。



2 作業場や通路にこぼれていた水、洗剤、油等により滑って転倒 (19%)

→水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してからの開放の徹底。



3 水場（食品加工場等）で滑って転倒 (16%)

→滑りにくい履物の使用。防滑床材・防滑グレーチング等の導入。

4 雨で濡れた通路等で滑って転倒 (15%)

→雨天時等に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う。

転倒リスク・骨折リスク

■ 一般に加齢とともに身体機能が低下し、転倒しやすくなります

「転びの予防 体力チェック」「ロコチェック」をご覧ください。



転びの予防
体力チェック



ロコチェック

■ 特に女性は加齢とともに骨折のリスクも著しく増大します

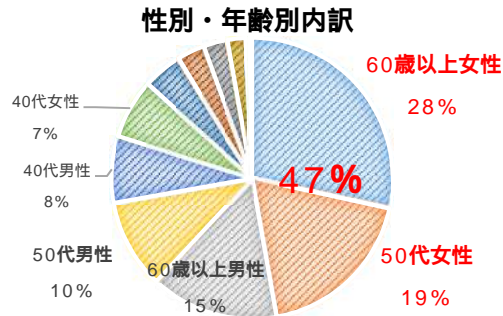
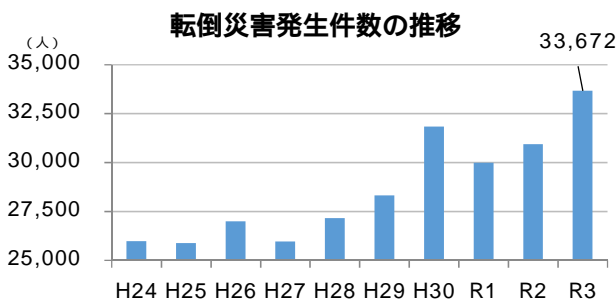
対象者に市町村が実施する「骨粗鬆症検診」を受診させましょう。

■ 現役の方でも、たった一度の転倒で寝たきりになることも

「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」（内閣府ウェブサイト）



内閣府ウェブサイト



令和5年度 宮城年末年始労働災害防止強化運動

前月の「せみね監督署だより」でもお伝えしましたが、現在、「宮城年末年始労働災害防止強化運動」（12月1日～1月31日）が展開されております。年末年始は、何かと慌ただしくなることに加えて日没時間の早まりによる視界不良、積雪や凍結などによる作業環境の悪化等により労働災害が増加するおそれがあります。実際、令和4年の宮城県内における休業4日以上[※]の被災者数を月別に見ますと圧倒的に1月が多く（330人）、次に多い7月（228人）の実に1.4倍強という驚くべき状況にありますので、強化運動期間中に取り組むべき事項を是非とも実践していただきたく思います。

強化運動の
実施事項は
こちらから

